持続可能な原材料調達に向けて
～「産地連携フォーラム」のお知らせ～

MAFF
Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries
農林水産省

令和７年12月
原材料調達・品質管理改善室

大手食品企業における産地連携

○　現在、国内における大手食品企業においても、産地との連携強化による原材料の安定調達の取組が行われつつあり、これを**中堅企業を含め全国に広げていく**必要がある。

企業名	概要
味の素株式会社	スープで使用するスイートコーンはすべて契約農家が栽培しており、国内生産（北海道）で約半分、残り半分はアメリカからの輸入。国内の契約農場において定食苗を農業者に提供し、また、グループ会社の社員（通称コーンレンジャー）が栽培を指導している。さらに、契約農場の農業者に対して、グループ会社がコーンハーベスタを提供しており、収穫から24時間以内で工場においてパウダーまで加工している。
カゴメ株式会社	創業以来、よい原料はよい畑から生まれるという考えから、トマトの「契約栽培」に取り組んでいる。「契約栽培」は、まず作付け前に農業者と全量を買い入れる契約を結び、その後、フィールドパーソンと呼ばれる担当者が契約農家の畑を巡回し、カゴメ独自のきめ細かな栽培指導をはじめ、トマトの生育状態にあわせて的確な指導を行っている。また、高齢化により栽培中止や規模を縮小する農業者が増えているが、国内加工用トマトの必要量は増加している。その解決策の一環として、ヤンマー農機や農業者と共同で加工用トマト収穫機「Kagome Tomato Harvester（KTH）」を開発した。農業者に負担が大きい収穫作業の機械化にも取り組んでいる。 ○　所有する加工用トマトの収穫機35台程を収穫時期に全国の契約農家に貸し出して原料トマトを調達（北海道農政事務所からの情報）。
カルビー株式会社	重労働で労力がかかるばれいしょの契約農家の負担を軽減するため、多様な栽培・収穫支援を行っている。会社でコントラクター（作業請け負い）を立ち上げ、大型機械をコントラクターが導入して、労働負荷の高い収穫作業を支援し、ばれいしょの作付拡大を図っている。また、栽培指導を行うフィールドマンを配置して、契約農家を訪問し、じゃがいもの生育状況を確認するとともに、肥料や農薬使用について指導している。 ○　契約農家に対して栽培開始後３年までは大型のばれいしょ収穫機を貸し出し（九州農政局からの情報） ○　取組の一環として、JAしれとこ斜里（北海道斜里町）と連携し、同町に人気商品「ポテりこ」等を製造する冷凍加工施設やばれいしょの貯蔵庫等を新設し、2027年に操業開始することを予定している（2025年1月23日公式プレスリリース）。
株式会社ローソン	日本全国のローソンファーム各社で生産された農産物が、ローソングループで販売するサラダ、惣菜、ファストフーズなどの商品の原材料として出荷されている。ローソンファーム各社では、作付前の土壌診断を経て作物が生育する上で理想的な土づくりを行っている。また、ローソンファーム岩内では、ローソンが青果物の1次加工施設を整備して、産地での作付け拡大に寄与している。

※担当者調べ

取組事例（産地を支援する取組）　（株式会社小田垣商店、品目：黒豆）

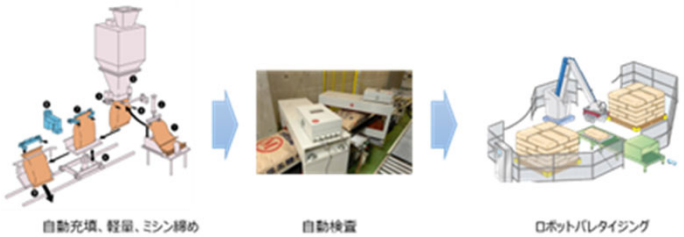
○産地に対して気候変動に強く病害抵抗性を有する新系統の種苗を提供。
○産地への収穫機械等の貸与、技術指導員の派遣及び同社社員やボランティア等による収穫作業補助により、手作業に依存している丹波黒大豆の栽培と生産者の高齢化へ対応。
○選別・充填ラインの生産能力向上と自動化により原材料の受け入れ態勢を強化。

(株)小田垣商店

「丹波黒大豆」のリーディングカンパニー

□新系統の種苗の実証栽培
□機械化による省人・大規模化
□技術指導による効率的かつ大規模な生産への転換

・産地の構造的課題解決
・産地の生産力の底上げ



選別・充填ラインの導入で、手作業⇒自動化
生産能力が向上し、市場の需要へ対応が可能に

☑新系統の種苗の提供
☑収穫機械の貸与
・コンバイン収穫機
・ブームスプレイヤー
☑技術指導、収穫作業補助

産地の高齢化や人手不足を解決し、
求める品質の「丹波黒大豆」を
安定的に調達

丹波黒大豆の生産者

従来の手作業による収穫

コンバイン機を用いた機械収穫

ブームスプレイヤーによる散水

産地の高齢化や人手不足等の構造的課題を解決すると共に、
高品質の「丹波黒大豆」の安定的な調達と、市場への安定供給を実現

原材料調達の実態と課題

- **食品企業と産地が直接的に連携**することで、**中長期的かつ安定した関係を構築**することが必要

種苗の開発や提供

・・・栽培の後押しとして、種子や苗木を提供することで、産地との連携が進む。
・・・歩留まり対応の加工用品種だけでなく、温暖化への対応・輸送耐性の強さ等、互いのニーズにあった品種を開発するきっかけを生む。

資機材の貸与

・・・人手不足を補うため、ドローンによる作業効率化や収穫機材の貸与等を行い、産地側の不安解消を図る。

営農・技術指導

・・・肥料等の土づくりや収穫時期の判断等、優良事例や専門知識を活用する。

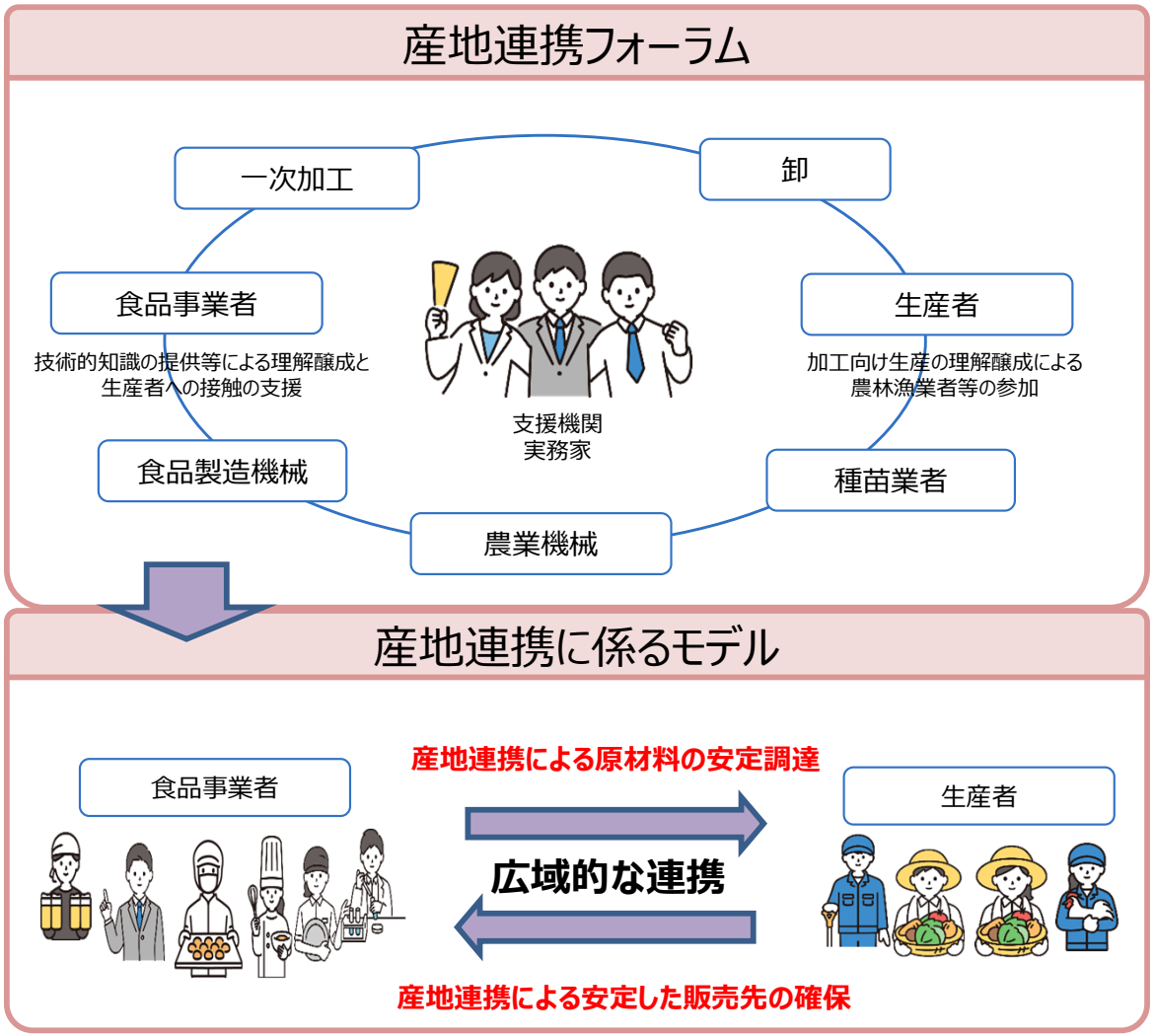
契約栽培

・・・事前に購買量等を設定し、安定した品質の加工用原料調達を推進する。

産地連携フォーラム

【令和7年度当初予算額　17,5百万円】

食品事業者や生産者等から構成されるフォーラムを形成し、生産者の理解醸成、食品事業者の原材料生産に係る技術的知識の向上等に資する取組により、食品事業者と生産者の広域的連携を図り、持続的かつ安定した原材料調達を推進する。



【産地連携への課題】

食品事業者	・農業生産への知識不足 ・産地と交渉するための技術的知識の不足 （契約栽培の買取価格や数量等） ・フィールドパーソンの不在　等
生産者	・加工用農産物生産の知識・経験不足 ・生産における人手不足 ・専用機材の調達困難　等

【取組内容】

（１）フォーラムの形成
本フォーラムの形成にあたり構築したWebサイトを用いて、参加対象者へ参加を促す。

（２）情報発信
本事業の目的及び産地連携への課題を踏まえ、**食品事業者や生産者等が求める情報**をWebサイト等を通じて発信する。

（３）セミナー等イベント開催
本事業の目的及び産地連携への課題を踏まえ本フォーラムの参加対象者に対して**セミナー等により理解醸成を促し、その上で参加者同士の意見交換の場**を提供する。

［お問い合わせ先］　原材料調達・品質管理改善室 連携計画班　TEL：03-6738-6166　E-mail：kaizen@maff.go.jp

「産地連携フォーラム」について

2025年
10月1日(水)
開設

国産原材料の持続的な調達に向け、
食品企業・生産者・種苗、機械、肥料メーカー・大学等の研究機関等、
「産地連携」に意欲のある皆様の参加をお待ちしています

食品企業の悩み

取引価格の変動・国産原材料の安定調達の難しさ・農業生産における技術的知識の不足

生産者悩み

人手不足による業務逼迫・省力化に向けた機材調達の困難・加工用原材料の栽培経験がない

**産地連携
フォーラムサイト**

優良事例の紹介
・・・契約栽培や、気候変動や単収増加に対応した品種改良への取組み、
専門家と共同の営農指導、加工用原料のメリット

生産者・食品事業者・種苗や農機メーカー・大学や研究機関など、様々な連携が生まれる中で、各参画者の思いや取組み事例をまとめて知ることができます

Q&A
・・・生産者、事業者ごとに、産地連携における疑問を解消します

オンライン
セミナー

全６回のオンラインセミナーを開催

・12月より、会員を対象にオンラインセミナーを実施
・産地、企業、大学、都道府県等による先進的な取組みや、
　産地連携による経営や品質の安定といった成功事例をお届け
・様々な立場からリアルな声をお届けし、皆様からの質問にお答えします

各セミナーのイメージ（調整中）

	開催時期	主なテーマ	セミナー内容
1回目	12月24日 （水）	産地連携の重要性 産地連携フォーラムについて	持続可能な原材料調達に向けた産地連携の重要性 農林水産省の事業紹介
2回目	１月20日 （火）	農業経営の改善	農業経営の見直し 加工用原材料によるより安定した農業経営
3回目	１月下旬	新たな産地形成	既存設備を活かした新たな作物への挑戦 事業者からの苗木提供や専門家による営農指導
4回目	２月上旬	加工用原材料と契約栽培	露地栽培できる加工用原材料 契約栽培による品質管理
5回目	２月中旬	気候に合わせた産地開発	土地条件に合わせた作物の選定
6回目	３月上旬	契約栽培のポイント	食品事業者の契約栽培について 生食用と加工用の活用